

# 岩村田遺跡群 宮の前遺跡

長野県佐久市岩村田宮の前発掘調査報告書

2006.10

黒澤周一  
佐久市教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は黒澤周一による宅地造成事業に伴う岩村田遺跡群 宮の前遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市岩村田 1841-31 黒澤 周一
- 3 調査主体者 佐久市中込 3056 佐久市教育委員会 教育長 三石 昌彦
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 岩村田遺跡群 宮の前遺跡(IMM)  
佐久市岩村田字宮の前 1991-1、1992
- 5 調査担当者 上原 學
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡　　例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。  
H-竪穴住居址　M-溝跡　D-土抗　P-ピット
- 2 スクリーントーンの表示は以下の通りである。  

遺構-地山断面	
遺物-赤色塗彩	
- 1 掘図の縮尺は以下の通りである。  
遺構-竪穴住居址・土抗・ピット・溝跡 - 1/80  
遺物-弥生土器 1/4
- 2 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 3 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水系高を標高とした。
- 4 調査グリッドは小グリッド 4X4m、大グリッド 40X40m である。

## 目　　次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
1. 立地と経過	1
2. 調査体制	2
3. 遺構と遺物の詳細	2
4. 基本層序	2
第Ⅱ章 遺構と遺物	2
H1号住居址	2
H2号住居址	4
D1号土抗	4
M1号溝跡	5
M2号溝跡	6

写真図版

抄録

# 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

## 1. 立地と経過

岩村田遺跡群宮の前遺跡は佐久市岩村田市街地西側の標高 697m を測る湯川右岸に広がる台地上に位置する。遺跡の周辺地域、特に南方に広がる台地上は遺跡の密集地域として知られ、弥生時代から平安時代を主とする遺構が多数発見されており、県の重要遺跡にも指定されている。周辺の調査としては、昭和 43 年に宅地造成に伴う東一本柳遺跡の調査が実施され、古墳時代後期の住居址が 5 軒検出されたのをはじめとし、昭和 46 年には杏葉・辻金具・鉄製轡・玉類など豪華な副葬品を出土した東一本柳古墳、昭和 47 年には弥生時代後期の住居址 7 軒、平安時代の住居址 10 軒などを検出した北一本柳遺跡の調査が行われている。平成になってからは開発も増し、平成 3 ～ 11 年に西一本柳遺跡Ⅰ～Ⅶ、平成 12 ～ 14 年に西一本柳遺跡Ⅷの調査がグランド造成・店舗建築・道路築造といった事業に伴い行われ、弥生・古墳・平安時代の住居址 200 軒以上が発見されている。近年では、平成 15 年、集合住宅建設に伴い対象地の南西約 80m に所在する北一本柳遺跡Ⅸの調査が行われ、弥生時代に貴重とされる青銅を利用した銅鏡(腕輪)が住居址及び墓跡と思われる土坑内から出土している。



宮の前遺跡位置図



調査区位置図



宮の前遺跡調査区・試掘トレンチ配置図(1:1,000)

今回、宅地造成事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。結果、弥生時代の住居址、溝跡が認められたことから、開発主体者と協議を重ね、対象地内にて発見した遺構の記録保存を目的として、佐久市教育委員会が主体となり発掘調査を実施する運びとなった。

## 2. 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	三石 昌彦
事務局	社会教育部長	柳沢 義春	
	文化財課長	中山 恒	
	文化財保護係長	高村 博文	
	文化財調査係長	高柳 正人	
	文化財保護係	荻原 留美 高橋 浩一	
	文化財調査係	林 幸彦 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也	
	富沢 一明 神津 格 上原 学 出澤 力		
調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子	
調査副主任	堺 益子		
調査担当者	上原 学		
調査員	阿部 和人 甘利 隆雄 市川 昭 加藤 信一 菊池 喜重 武者 幸彦 百瀬 秋男 山本 徳明		

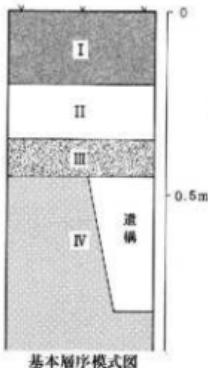
## 3. 遺構と遺物の詳細

遺構	竪穴住居址	2軒	弥生時代後期 1、他 1
	溝	跡	2条 弥生時代 1、不明 1
	土	坑	1基 弥生時代以降

遺物 弥生土器(壺・甕・高杯・蓋)

## 4. 基本層序

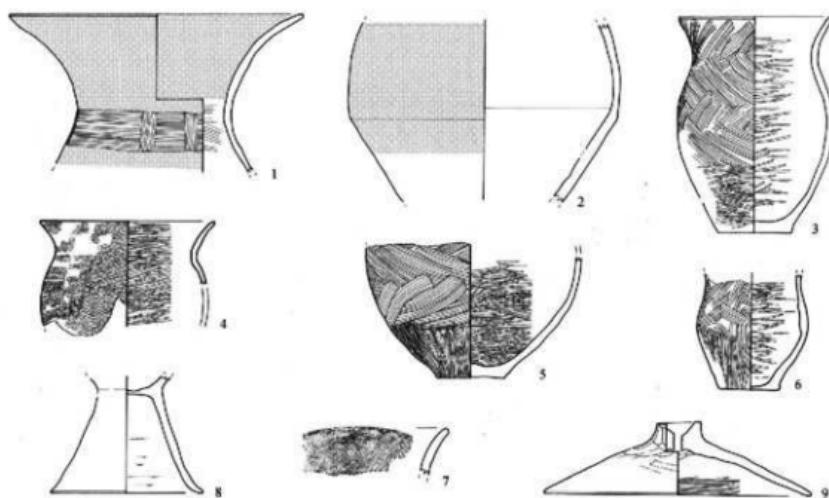
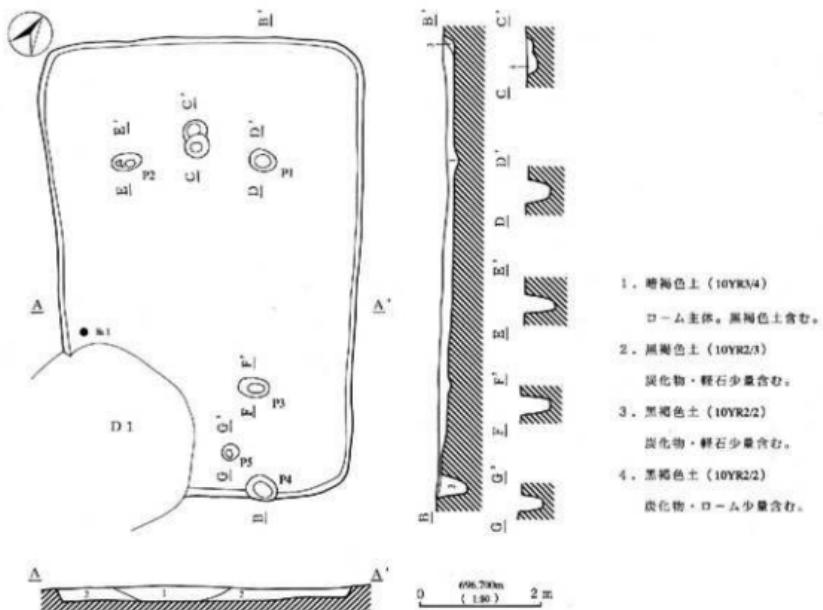
佐久市北部の台地上は、現在の浅間山が形成される以前 2,800m を超える火山であった黒鹿火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在の浅間山の中心を成す前掛山に成長する際に降下次山灰及び軽石流が大きく 2 度に渡り堆積し、周辺部に軽石流二次堆積物が分布する。(下層から佐久市北部地域の第一軽石流・P1、佐久市北端地域の第二軽石流・P2) その厚さは 20m をを超え、現在はこの堆積した黄褐色土軽石流を表土である黒褐色土がおおっている。遺跡内は水田であったことから I 層は水田の床上上層で褐灰色土、II 層は水田の床上下層で赤褐色土、III 層は旧地表の黒褐色土、IV 層は黄褐色土の軽石流である。遺構確認は黄褐色軽石流(二次堆積物?)上面で行った。



# 第Ⅱ章 遺構と遺物

## 1. H1号住居址

遺構は対象地の南西に位置し、南西コーナー付近を D1 号土坑に切られる。規模は東西 5.3m、南北 7.6m、確認面から床面までの深さは 18cm を測る。平面形態は南北方向に長い長方形である。調査区一帯は水田地帯に囲まれ、また現在の地下水位が以前に比して上昇したためか、遺構確認面付近の高さまで湧水が認められた。床は地山を直接床面とし硬質であった。主柱穴は梢円状のビットが 3 個確認でき、北側ビット間に炉が存在した。また、南壁中央付近には入口に関係すると考えられるビットも認められた。遺物は、弥生土器の壺・甕・高杯・蓋が出土した。赤色塗彩された壺などの存在から弥生時代後期(箱清水)と考えられる。



H1号住居址・遺物実測図

番号	種類	D1F cm	NDF cm	深さ cm	調査・文様	残存状況	色
1	弥生土器 壺	24	—	—	外面・口縁内面赤色剥離 頭部破・横幅端直線文 内面ヘラナデ	D1頭部 100	赤色
2	弥生土器 壺	—	—	—	外曲面部上半赤色剥離 頭部ト半纏ミガキ 内面ヘラナデ	剥離破片	赤色
3	弥生土器 壺	(12.4)	15.8	—	D1縁・頭部上半纏端羽条文 頭部下半纏ミガキ 内面横ミガキ	全体 50	明赤褐色
4	弥生土器 壺	14.3	—	—	外曲面部端羽条文 外面下半纏ミガキ 内面横ミガキ	D1縁・頭部上半	暗赤褐色
5	弥生土器 壺	—	5.5	—	外曲面部端羽条文 外面下半纏ミガキ 内面横ミガキ	D1縁・頭部中央	灰褐色
6	弥生土器 壺	—	5.1	—	外曲面部端羽条文 頭部下半纏ミガキ 内面横ミガキ	全体 60	純い黄褐色
7	弥生土器 壺	—	—	—	外曲面部端羽条文 内面横ミガキ	D1縁破片	純い赤褐色
8	弥生土器 瓢箪	—	12.4	—	外曲面部端羽条文 内面横横み直す ナデ	頭部 90	赤色
9	弥生土器 壺 つまみ付E3.6	—	21.8	6.1	つまみ中央に径6.5mmの孔 外面ナデ 内面付着物	全体 60	灰褐色

H1号住居址遺物観察表

## H2号住居址

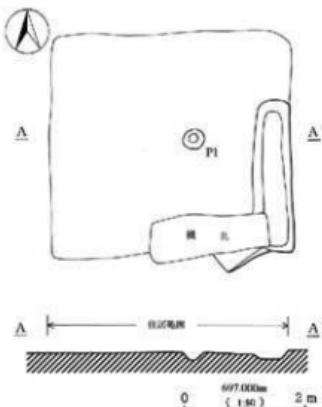
遺構は調査区南東に位置し、M2号溝跡に切られる。遺構の深さが浅かったことから、検出時はすでに掘方状態で僅かに住居址の痕跡が残る程度であった。規模は東西3.9m、南北3.7mで、平面形態は方形と思われる。ピットは1個確認できたが主柱穴であるかは不明である。炉等の施設は確認できなかった。遺物は検出段階で弥生土器小破片が僅かに認められた。時期は弥生時代と思われるが断定はできない。

## D1号土坑

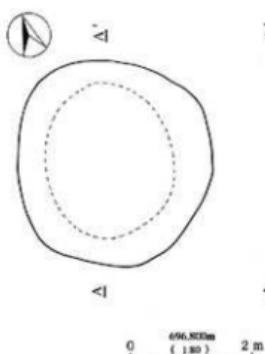
遺構は調査区南西に位置し、H1号住居址の北西コーナー付近を切る。規模は径3.5m内外を測り、平面形態は円形である。壁はやや外傾するものの垂直に近い。

遺物は弥生土器が出土したが、H1号住居址出土遺物と接合される土器が含まれることから、混入遺物と思われる。D1号土坑に伴うと断定できる遺物は出土しなかった。

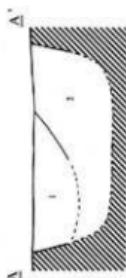
時期は、弥生時代後期以降の遺構と思われる。



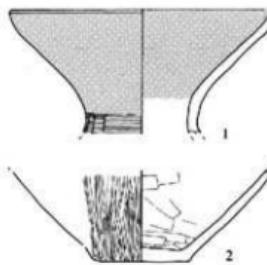
H2号住居址実測図



D1号土坑実測図



1. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム・輕石少量含む。
2. 純い黄褐色土 (10YR4/5) ローム主体。暗褐色土・輕石含む。



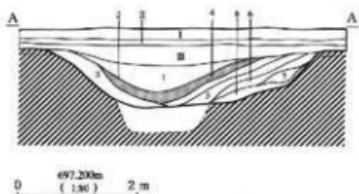
D1号土坑出土遺物

品目	器種	基盤cm	底面cm	測定・文様	現存率%・部位	色調
1	弥生土器	底 [21.6]	—	口内外面赤色塗彩 頂部縦溝巻状文	100%・全体	赤色
2	弥生土器	底	7.8	外面縦ミガキ・上部に赤色塗彩の痕跡 内面ヘラナデ	底部～胴部下半	褐色

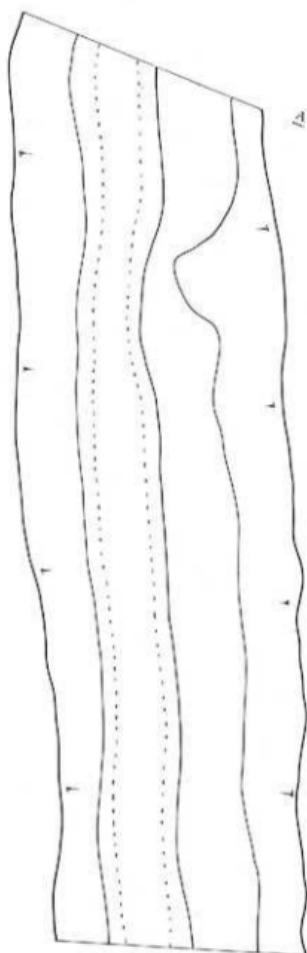
D1号土坑出土遺物観察表

## M1号溝跡

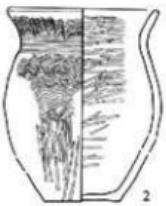
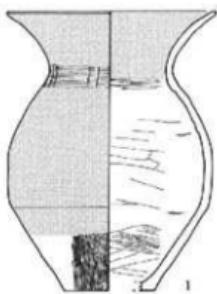
遺構は調査区北を東西方向に通過する。遺構確認面付近まで湧水が認められ、表土除去作業中にも壁面の崩落が一部認められることから、調査は調査区中央付近の安定した範囲のみ掘り下げを実施した。規模は確認面までの幅4.4m内外、途中テラスを持つ部分での幅2.4m内外、テラスから幅を狭める溝幅1.5m内外であった。調査長は14.5m、試掘によって確認した長さは32mを測る。遺構の掘り下げは、周囲からの湧水のため安全を考え、テラス部分までにとどめた。調査深度は1.3mを測る。遺物は覆土の下層部から弥生時代後期(箱清水)の土器が出土した。本遺構は溝として規模も大きく、南には弥生時代の遺跡が広く展開することから、弥生時代の集落を取り囲む環境であった可能性が考えられる。また、土層断面中にV字状の黒色土が堆積していることから、時期は不明だが、一部遺構が埋まった後、小規模の溝が存在していた可能性を伺い知ることができた。



- I 暗灰色土 (10YR4/1) 水田床土
- II 赤褐色土 (5YR4/6) 水田床土
- III 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・軽石・炭化物少量含む。
- 1. 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石・ローム・褐色土含む。
- 2. 黑褐色土 (10YR2/2) 軽石・ローム・褐色土含む。
- 3. 暗褐色土 (10YR3/4) 軽石・ローム・褐色土含む。
- 4. 暗褐色土 (10YR4/4) 軽石少量・ロームやや多く含む。
- 5. 暗褐色土 (10YR3/4) 軽石・ロームやや多く含む。4>5
- 6. 黄褐色土 (10YR4/3) 軽石・ロームやや多く含む。5>6
- 7. 黄褐色土 (10YR5/0) ローム主体。暗褐色土少量含む。
- 8. 暗褐色土 (10YR2/2) 粒子密・ローム粒少量含む。



M1号溝跡実測図



M1号溝跡出土遺物

名号	器種	西形	口径cm	底径cm	高さcm	基部cm
1	弥生土器	壺	[17.2]	[7.4]	[23.1]	赤褐色
		外縁丸滑・側部上半部直筋・側部下半部丸くガラス質表面無釉柱状文 内面紅色素鉄・表面無ドヘラナテ				
2	弥生土器	壺	12.4	6.2	15.8	赤色
		外縁・側部上半部直筋・側部下半部丸くガラス質表面無釉柱状文 内面無色素鉄・表面無ドヘラナテ				
3	弥生土器	壺	天井4.2	—	—	暗赤褐色
		天井斜線8mmの乱・側面縦縞かげナゲ 内面無カナ 天井部破片				鈍い褐色

M1号溝跡出土遺物観察表

## M2号溝跡

遺構は調査区南を東西方向に通過し、H2号住居址、D1号土坑と僅かに切り合い関係にあり、H2を切り、D1との新旧は不明である。規模は確認面での幅72cm内外、底幅40cm内外、調査長8.8m、試掘調査による確認長18mである。遺物は出土しなかった。



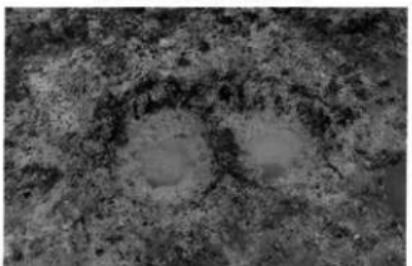
M2号溝跡実測図



宮の前遺跡調査区全景(南から)



H1号住居址全景(東から)



H1号住居址調査風景



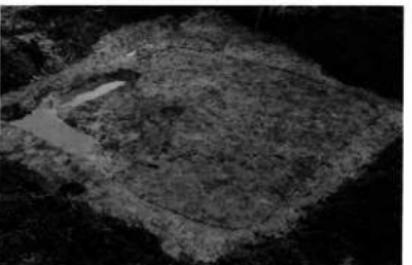
H1号住居址調査風景(南から)



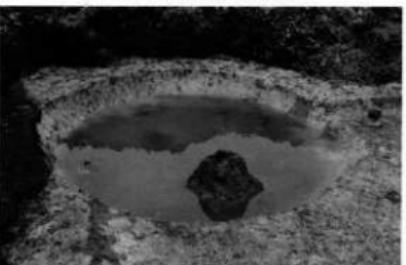
H1号住居址調査風景(北から)



H1号住居址遺物出土状況



H2号住居址全景(北東から)



D1号土坑全景(東から)



M1号溝跡全景(西から)



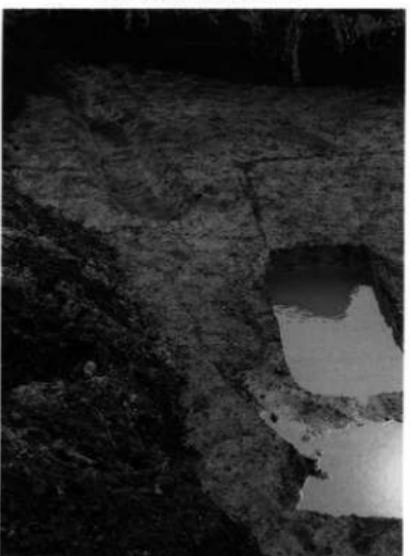
M1号溝跡調査風景(内から)



M1号溝跡土層断面(西から)



M2号溝跡西側調査部全景(東から)



M2号溝跡東側調査部全景(東から)



宮の前遺跡基本層序



宮の前遺跡表土除去作業(南から)



宮の前遺跡出土遺物

# 報告書抄録

書名	岩村田遺跡群 宮の前遺跡
ふりがな	いわむらだいせきぐん みやのまえいせき
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第140集
編著者名	上原 学
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2006.10.31
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀 5953
道路名	岩村田遺跡群 宮の前遺跡(IMM)
遺跡所在地	佐久市岩村田字宮の前 1991-1, 1992
遺跡番号	52
経度	139° 48' 33"
緯度	36° 15' 54"
調査期間	2006.5.15 ~ 2006.5.30(現場) 2006.5.31 ~ 2006.10.31(整理)
調査面積	220 m <sup>2</sup>
調査原因	宅地造成
種別	集落址
主な時代	弥生時代
遺跡概要	造構 穴六住居址 2軒(弥生時代後期 1軒、弥生時代 1軒) 土坑 1基(弥生時代以降) 满床 2条(弥生時代 1条、不明 1条) 遺物 弥生土器(甕・壺・高环・釜)
特記事項	調査の結果、弥生時代の住居址及び、同時期の集落北端を区切る環濠と思われる溝跡を発見した。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第140集  
岩村田遺跡群 宮の前遺跡  
2006年10月

編集・発行 佐久市教育委員会  
〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056  
文化財課  
〒 385-0006 長野県佐久市志賀 5953  
Tel 0267-68-7321  
印刷所 株式会社ダンバラ印刷

